

循環器内科

文責：山田 寿太郎

概要

令和3年度4月現在の常勤スタッフは山田寿太郎（副院長、循環器科長、冠疾患科長 鹿児島大学H6卒）、平野能文（検査科長 島根大H6卒）、白石宏造（救急科長 高知大学H18卒）、内田耕資（山口大学H18年卒）の4名です。そのほか百名英二（山口大学S49卒）、濱田芳夫（山口大学S55卒）は非常勤医師として勤務しています。

診療

冠動脈インターベンション（PCI: percutaneous coronary intervention）をはじめ、カテーテルアブレーションやデバイス植え込み（ペースメーカー、植え込み型除細動器、両心室ペーシングなど）も行っています。特にPCIに関しては、平成30年6月から冠疾患治療科を開設し、冠動脈複雑病変にも積極的に治療を行っており、PCI症例数は増加しています。さらには令和2年4月から高速回転冠動脈アテレクトミー:Rotablator（ロータブレーター）が使用できるようになり、石灰化病変に対しても十分な治療ができるようになりました。また令和3年12月より心臓血管外科との合同ハートチームで経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）を行っており（山口県では山口大学病院に続いて2施設目）、順調に症例数を伸ばしています。心エコー検査においては医師以外に優秀なソノグラファーが日々検査に従事しており、検査数も経胸壁心エコーは年間5000件以上行っています。経食道心エコーは112例でした。経食道3D心エコーによる弁膜症の画像的評価などを高性能のエコー機器を駆使して行い、心臓血管外科との合同カンファレンスを通して術式の決定や術中管理などを行っています。

カンファレンス

毎週火曜日午前8時00分より循環器内科カンファレンスを行い、診断治療の方針を決定しています。さらには毎週水曜日午前7時30分より心臓血管外科やそのほかのコメディカルとの合同カンファレンスを行っており、興味深い症例の検討会や大動脈弁狭窄症の症例の治療方針も決めるようにしています。

令和3年度診療実績

冠動脈インターベンション（PCI）総数	191
急性冠症候群に対するPCI	56
心臓カテーテルアブレーション	35
ペースメーカー（新規）	55
ペースメーカー（交換）	54
植え込み型除細動器（新規）	6
植え込み型除細動器（交換）	3
両心室ペースメーカー（新規）	3
両心室ペースメーカー（交換）	0
両心室ペーシング機能付き植え込み型除細動器（新規）	9
両心室ペーシング機能付き植え込み型除細動器（交換）	5
経胸壁心エコー	5927
経食道心エコー	85

令和3年度もコロナ禍ということもありましたがPCI件数は多く、多くの複雑病変に対しても治療を行いました。今後もさらにPCI、カテーテルアブレーションおよびデバイス植え込み、さらにはTAVIなどに力を入れ、山口県西部の中核病院としてリーダーシップを発揮していきたいと考えています。